

# ヒノキ間伐材を有効活用した原木ナメコ栽培

ヒノキ林を整備するときに伐採された間伐木は、多くが利用されないまま林内に放置されているのが現状です。ナメコは広葉樹から発生させるのが一般的ですが、ヒノキ（針葉樹）からも発生することが知られています。

そこで、今まで使われなかったヒノキの間伐木をナメコの原木栽培に有効活用する方法を紹介します。栽培のポイントは伐採直後の生木に植菌することと、日の当たらない沢地形のスギ林を利用することです。

## 1 場所選び

直射日光の当たらない、土壌が常に湿っている森林やおだやかな沢地形が適しています。ヒノキはやや乾燥した土壌に植林されるため、ナメコの栽培には適しません。フユイチゴ、リョウメンシダ、ヒカゲイノコヅチといった植物が生えているスギ林であれば適地です。



フユイチゴ



リョウメンシダ



ヒカゲイノコヅチ

## 2 植菌と原木の埋め込み

伐採したらすぐに植菌し、地面に半分埋め込みます。

## 3 原木の埋め込み

ナメコ菌は乾燥に弱いため、菌を植え付けた原木はすぐに地面に半分埋め込んで、原木全体に菌糸を張り巡らせます。埋め込んだ原木は動かさないように注意します。

## 4 収穫

翌年の秋（9月～10月）から収穫できます。8月になったらきのこに泥が付かないように落ち葉やわら、寒冷紗などをほだ木に被せます。傘が八分開きになるくらいまで大きく育てるとおいしいナメコが収穫できます。

